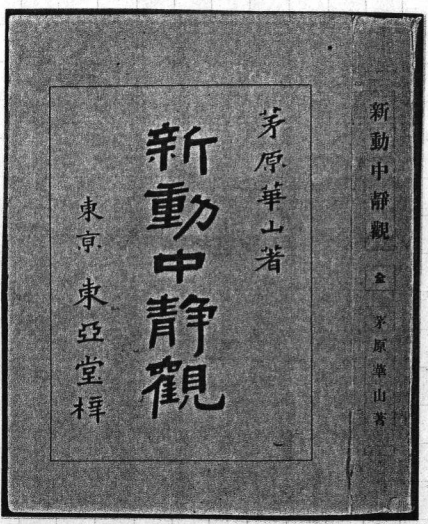


茅原華山 かきはら けいざん 評論家。明治二年八月四日東京生れ、昭和二十七年八月四日歿（二七〇—一九五二）。本名藤太郎、幼名藤半。別號「二城、南陵、火山將軍、茅原廉、華山生、華山迂人、華山逸民、華山隱士等。國民英學舎等、小學校。地方紙記者を経て、明治二十七年朝報社入社。大正二年石田友治と雑誌『第一帝國』を、次で『洪水以後』を創刊主宰。九年個人誌『内観』發刊。

著書『動中靜觀』（明治二十七年九月一日東亞堂書房）、『現實生活論』（大注嘯風共著、明治四十五年五月十五日豊文館）、『華山文章』（明治四十五年七月十五日有朋館）、『古今の婦人』（合著・福島四郎編、大正元年九月十八日婦女新聞社）、『新動中靜觀』（大正二年五月二十日東亞堂書房）、『第一帝國論』（大正二年十一月十二日南北社）、『银杏の葉蔭』（大正四年九月十日實業之日本社）、『黎明』（大正五年一月五日實業之日本社）、『新英雄主義』（大正五年四月二十日新潮社）、『半生の懺悔』（大正五年六月五日實業之日本社）、『現代文章講話』（小田政賢共著、大正八年六月五日日本評論社出版部）、『動的青年訓』（大正十二年十一月五日朝日書房）、『生き人と歿する日本人の訴ふ』（昭和八年二月一日内観社）、『日本國民の遺言』（昭和八年一月二十五日大日本雄辯會講談社）、『日本人の誕生』（昭和二十一年六月十五日岩波書店）、『汝は如何に生きんとするか』自由



二十一年六月十五日岩波書店）、『汝は如何に生きんとするか』自由

『新編 日本書紀』(昭和二十五年五月新編社)等。